

付録 文部省におけるローマ字教育実験調査について

1 目 的

この実験調査は、義務教育期間中の普通の自然学級におけるローマ字学習の効果を調査して、ローマ字教育上の種々の問題点を発見するとともに、調査の結果を分析・評価して、ローマ字教育に関する基礎的な資料を得ようとするものである。

2 組 織

(1) この実験調査は、文部省調査局国語課、国立教育研究所、国立国語研究所が協力して行う。

(2) ローマ字教育実験調査研究会を設けて、指導案、テスト問題などを作成し、および実験調査の結果の分析・評価、その他について研究協議する。

(3) 実験調査に関する事務は、文部省調査局国語課において処理する。

3 対 象

次の条件によりうるもの

(1) 「小学校におけるローマ字教育実施要領」（昭和22年2月28日 文部次官通達）によってローマ字教育を行う自然学級。

(2) 少なくとも3か年は継続して行いうる学校。

(3) 第1年度は、それまでローマ字教育を実施していない小学校第3学年の学級であって、第2学期（昭和26年9月）から実施しうる学級。

(4) 自然学級はこの実験調査開始のときの条件であって、その後については、児童の転入学などに特別の考慮を加えるものとする。

4 実験学級の選定

(1) 国立教育研究所の資料によって、学校の教育課程のグループを基礎に、学校の学級数、教職員ひとりあたりの児童数、および地理的条件等を考慮して選定した。

(2) 設置学級は20学級とする。

5 授業時間数および配当

1学年を通じて40時間以上を標準とする。（時間配当については備考参照）

6 教 材

(1) 学習指導は教科書を教材として行う。

(2) 使用教科書は、実験学級を設ける学校が選定し、文部省があっせんす

る。

(3) 副読本・参考書等は原則的に学習指導の教材としては使用しない。

7 学習指導法

(1) 指導法については実験調査の条件をできるかぎり同じくするために、ローマ字教育実験調査研究会において具体的な指導案を作成し、それによることとする。

(2) 宿題に類するものは、原則として課さないこととする。

(3) 課外指導は原則として行わないこととする。

8 実験調査項目

特殊な調査項目は設定しない。

9 学習活動の観察記録

(1) 担当教官は、学習指導にあたっては学習指導要領国語科編（案）および指導試案に基づいて中心的な話題・題材を設定して、毎時間の教案を作成する。

(2) 学習活動については、学級別学習指導観察記録簿に記録する。学級別学習効果の観察記録・効果判定は、話題（教材）ごとに学級別学習指導観察記録簿に毎時記入し、それに個人の学習活動、その効果などの著しいものを、併記する。

(3) 観察記録の原簿は、文部省の求めに応じ、随時提出する。

(4) 観察記録・評価は所定の様式により、少なくとも、2か月ごとに教育委員会を通じ、文部省に報告する。

10 テスト

(1) 担当教官は、学習指導の段階ごとに、随時、テストを行って、学習活動の評価をする。テストの結果・評価については、教育委員会を通じ文部省に報告する。

(2) 毎年、だいたい17時間、30時間の指導経過後には、文部省で指定する中間テストを行う。報告については第1項に同じ。

(3) 各年度の指導の40時間終了後には、教育委員会の協力を得て、実験学級全体についてテストを行う。

(4) 第2項、第3項以外のテストに要する時間は、40時間のうちに含める。

11 国語学力テストおよび環境調査

ローマ字教育実験調査研究会で作成した問題により、漢字かなまじり文によ

る学力テストを行う。また、時に応じて所定の様式により環境調査を行う。

12 担当教官との連絡指導

- (1) 必要に応じ、教育委員会を通じ、文部省と緊密な連絡を行う。
- (2) 全国数か所において、ローマ字教育実験調査研究会の委員の参加を得て、指導を兼ねてデモンストレーションを実施する。

13 実験調査の結果

担当教官提出の観察記録の整理、テストの結果の整理、テストの結果と学習活動との相関関係の分析等を行う。

備考：第5項 授業時間数および配当については、

昭和26年度は、

- (1) 第2学期以降40時間とし、
- (2) 40時間を区分して、前期15週間は1週2時間ずつ30時間、後期10週間は1週1時間ずつ10時間とし、
- (3) 学習時間の配当と学習効果との関係について調査するため、以上の時間数の配当を下記の二つの種類に分けて行った。

甲類：前期15週間、30時間の授業を1週40分単位で3回に行い、後期10週間、10時間の授業は1週60分を2回以下で行った。

乙類：前期15週間、10時間の授業を1週20分単位で毎日行い、後期10週間10時間の授業を1週20分単位で3回に行った。

- (4) 甲類、乙類の時間配当を実施した実験学級は、下記のとおりである。

甲類：函館付小、秋田付小、光が丘、川崎、宇都宮付小、青木南、新鹿、若桜、法勲寺、隈府

乙類：富谷、宮寺、常盤松、磐田北、浮孔、新宮、桑島、生石、東国分、深江。

昭和27年度は、

1年間30週間、45時間を第1年度の甲類・乙類の区別を継続して行い、

甲類（函館付小、秋田付小、光が丘、川崎、宇都宮付小、青木南、新鹿、若桜、法勲寺、隈府）は

1週90分を30分ずつ火、木（または水、金）2回に、

乙類（富谷、宮寺、常盤松、磐田北、浮孔、新宮、桑島、生石、東国分、深江）は

1週90分を30分ずつ月、水、金（または火、木、土）の3回に行った。

ローマ字教育実験調査研究会委員名簿

(昭和28年3月現在)

久保田藤	鷹	文部省調査局長
天沼	寧	文部省調査局国語課
安藤新太	郎	東京都教育庁指導部
石黒修	治	国立教育研究所員
岩淵悦太	郎	国立国語研究所研究第1部長
小川俊一	郎	東京都杉並区立泉南中学校長
小田原喜治	彦	東京都大田区立久原小学校教官
金子好	郎	清明学園初等学校教諭
鬼頭礼	蔵	ローマ字教育研究所教育部長
木宮乾	峰	文部省初等中等教育局初等教育課
久納六	郎	東京都港区赤羽小学校教官
桜庭信	之	東京教育大学教育学部助教授
白石大	二	文部省調査局国語課長
高野柔	蔵	東京都荒川区立真土小学校長
丸山千	織	東京都渋谷区立千駄が谷小学校教官
三尾	砂	日本ローマ字会理事
村上俊	亮	国立教育研究所長

ローマ字教育実験学級名その他

県名	学校名	所在地	校長名	担当教官	児童数	つづり方の式
1 北海道	北海道学芸大学 函館分校付小	函館市八幡町153	林 重信	中川 繁	38	N
2 秋田	秋山大学学芸学部 付属小	秋田市東根小屋町64	久司 慶三	斎藤千彌男	50	H
3 山形	光が丘小学校	酒田市浜畑町75	村山 悌雄	渋谷 豊四	51	H
4 宮城	富谷小学校	黒川郡富谷町西沢13	平島 武夫	渡辺 孝夫	43	H
5 新潟	川崎小学校	長岡市千場町	鷲尾 末松	石口 輝隆	46	K
6 栃木	宇都宮大学学芸学部 付属松原小	宇都宮市戸祭町1637	中村 藤樹	浜野 衛	42	K
7 埼玉	宮寺小学校	入間郡宮寺村605	中野喜代春	荻野 勉	32	K
8 (川口市)	青木南小学校	川口市青木町3-390	加藤 武緒	生方 弘代	48	H
9 東静 (磐田市)	常磐松小学校	渋谷区常磐松町	椎野 開蔵	本橋 茂夫	55	K
10 磐田	磐田北小学校	磐田市見付	鳥居 誠一	榭原なみ子	61	N
11 三重	新鹿小学校	南牟婁郡新鹿村	尾川 貞夫	仲 敏郎	37	H
12 奈良	浮孔小学校	大和高田市三倉堂	中原 菊明	橋本 好史	40	H
13 兵庫	新宮小学校	揖保郡新宮町新宮	中塚 光男	石田 重夫	41	K
14 鳥取	若桜小学校	八頭郡若桜町	小倉 威	藪田 芳子	41	N
15 香川	法勲寺小学校	綾歌郡法勲寺村1200	三谷 修平	山下 雄	44	N
16 徳島	桑島小学校	鳴戸市撫養町	千葉清次郎	茂山 弘	31	N
17 愛媛	生石小学校	松山市生石町	永木 良	新山 賢	52	N
18 福岡	東国分小学校	久留米市国分町	宮崎 好雄	稲益 静雄	43	K
19 熊本	隈府小学校	菊地郡隈府町隈府	工藤 達也	岡本 計助	45	H
20 長崎	深江小学校	南高来郡深江村	中村 茂彦	和田 真澄	41	N

【注】
KNHは日本標準式（へボン式）を示す。

学 習 指 導 予 定 表

		1時間	15時間	30時間	45時間
読むこと					
1	機械的 方面	一目見て読み取れることばを増す。 一目見て読み取れる範囲を広げる。 慣用句を一目で読む習慣をつける。			
2	理解	いろいろな文体を読む力をつける。 イタリック体やゴシック体の使い方がわかる。 符号の使い方がわかる。 話しことばとして知っていることばなら、読みことばとして困難なく読めるようになる。 文脈から単語の意味がわかる力をつける。	準備をする。		
3	速さ	読む速さを増すことに興味をもつようになる。			
4	深さ	接統詞・副詞などの働きを理解する。 たとえた言いまわしを理解する力がつく。 分ち書きの違いによって意味が変ることばに気づく。 前後の関係で一つのことばの働きが違うことに気づく。	出度数の高いものをていねいに扱う。 準備をする。		
5	程度	経験の範囲を越えた内容を理解する力がつく。			
6		ほかのつづり方のローマ字文をも読むことができる。 文字の名まえ			
書くこと					
1		間隔1cm以下のけい線の中で字の間をつめて書く。 よく書き慣れた短い文を見ながら1分間50字以上の速さで書くことができる。 聴写することができる。 自分の書いたローマ字文が読みやすいかどうかを批判する。		何も見ないで速く書けることばを多く含んだ簡単な文。	普通の文。
2		書く語いを広げる。 日記や手紙によく使われることば。 一目見て読み取れることば。 反対語や同意語。 自由に正しく書く語いを多くする。			
3	分ち書き	接頭語や接尾語を見分けて書くことができる。 普通に使う略号を書くことができる。 数詞と助数詞の書き方が正しくできる。 地名の書き方が正しくできる。 語尾の変化することばの変換形のうち、前の段階で学習しなかったものを書けるようになる。 よく使われる副詞・接統詞が正しく書けるようになる。 1語を2行に書くときには一定の書き方に従う。			
4	作文	簡単な日記と手紙を書くことができる。 簡単なプログラム・図表・説明書などを書くことができる。 二つ以上の段落を書く力をつける。段落の書き始めと結びには、読み手に効果のある文を使うことができる。 段落には、題を正しい位置に書き、本文は余白をとって書く習慣をつける。 読んだものの筋書を作る。 人物や場所を外形から叙述する。			
5	符号	引用のしるし 間接引用 つなぎ（1語が2行にまたがる場合）。 問のしるし。文脈と語の調子によって疑問の意味が現れる場合。 強めるしるし かっこ（簡単な説明のことばを入れる。） くぎり（同じ種類のことばを並べる。） つまる音を示すアポストロフ。 アルファベット順（1字目まで。）			

注意 (1) この表に示したいろいろの力の学習指導は適宜に組み合わせて行うものである。

MEJ 4051

於けるに階段に進んだや
指導學習の字マロー

定価 25.00 円

昭和二十八年七月一日印刷
昭和二十八年七月二十日発行

著作権所有

文

部

省

発行所

光

風

出

版

株

式

会

社

東京都千代田区神田小川町一丁目一番地
代表者 竹田光二

印刷者

竹

田

印

刷

株

式

会

社

名古屋市昭和区白金町二丁目八番地
代表者 福寿米吉

発行所

光風出版株式会社

東京営業所

名古屋営業所

東京都千代田区神田小川町一丁目一
番地 電話 番号 神田 ②五三七七〇番
振替口座 東京 一六二五九九番
名古屋市中区白金町二丁目八番地
電話 番号 ⑧瑞穂 二五八六番
振替口座 名古屋 三八二五三番